

岩国港

山口県土木建築部港湾課

〒753-8501 山口市滝町1-1

☎083-933-3820(直通)

URL : <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/5/6/a/56a54eb2687128bbdac5764fd0a738f6.pdf>



1. 概況

岩国港は、山口県の東端に位置し、県東部と広島、島根両県の一部を背後地に控えた流通港として、また、隣接する広島県大竹市とともに瀬戸内海工業地帯の拠点港として躍進を続けている。

本港が立地している岩国市は人口13万1千人であり、藩政時代には毛利一族の吉川氏の城下町として栄えた。

近代に入り、恵まれた水資源を生かした紡績、パルプ、機械などの工場が林立する一方、錦帯橋をはじめ、岩国城、錦川の清流など多くの景観と史跡に恵まれ、年間約310万人の観光客が訪れるなど、名実ともに工業都市と観光都市とがうまく調和し発展を続けている。

一方、岩国市に隣接する和木町は、人口6千人程度の小さな町であるが、昭和16年に設置された陸軍燃料廠を母体として石油精製工場が進出し、昭和33年には全国にさきがけて石油化学コンビナートが形成されるや、瀬戸内海屈指の工業地帯として躍進した。

岩国港は全般的に水深が深く、比較的静穏である。また、瀬戸内海本航路と隣接し、大型船の入港が極めて容易であるという優れた港湾条件に恵まれ、本港における平成30年の港湾取扱貨物量は、1千430万トンとなっている。

本港の特色としては、背後の石油化学コンビナートの活発な生産活動を反映し、原油、重油、その他の石油、その他石油製品が全体の75%を占めている。

港湾施設については、各企業が自社専用の施設を有しているが、今後の企業活動の拡大に対応できる水深や水域の余地が少なく、さらに、近年の船舶の大型化や港湾貨物の変化等から、公共岸壁に対する依存度が高まってきている。

現在、公共埠頭としては、装束地区に-10m岸壁1バース、-5.5m岸壁2バースがあり、原油、石油化学製品等が扱われている。

また、新港地区には-10m岸壁2バース、-7.5m岸壁2バース、-5.5m岸壁2バース等があり、平成26年にはタイヤマウント式クレーン2基目が整備され、主としてコンテナ貨物が取り扱われている。

一方、室の木地区は、主として木材関連貨物の集約を図っており、-12m岸壁1バース、-10m岸壁1バース、-7.5m岸壁2バース、-5.5m岸壁2バース、陸上貯木場および水面貯木場が整備されている。

また、埠頭背後からの連絡強化及び、埠頭間の連携強化のため、臨港道路の整備に着手しており、一部区間において供用を開始している。

岩国港の港湾施設は、岩国基地より東部地域に偏在しており、原油等危険物の取扱いが多いことや、小型船の安全な泊地がないこと、さらに、物流の迅速化のための臨港道路の整備、船舶の大型化に対応する港湾施設の整備等、解決すべき多くの課題を抱えている。

このため、今後は、本港の取扱貨物の特性に応じた機能分担を図るとともに、県東部における流通港にふさわしい港湾開発や、秩序ある港内の保全等を図ることとしており、さらに、近年の船舶の大型化やコンテナ化に対応するため、港湾施設の整備及び港湾機能の拡充を積極的に進めることとしている。